



2015-19-1

## 犬の肝臓

提出機関:テネシー大学

症例:チワワ 12歳 去勢



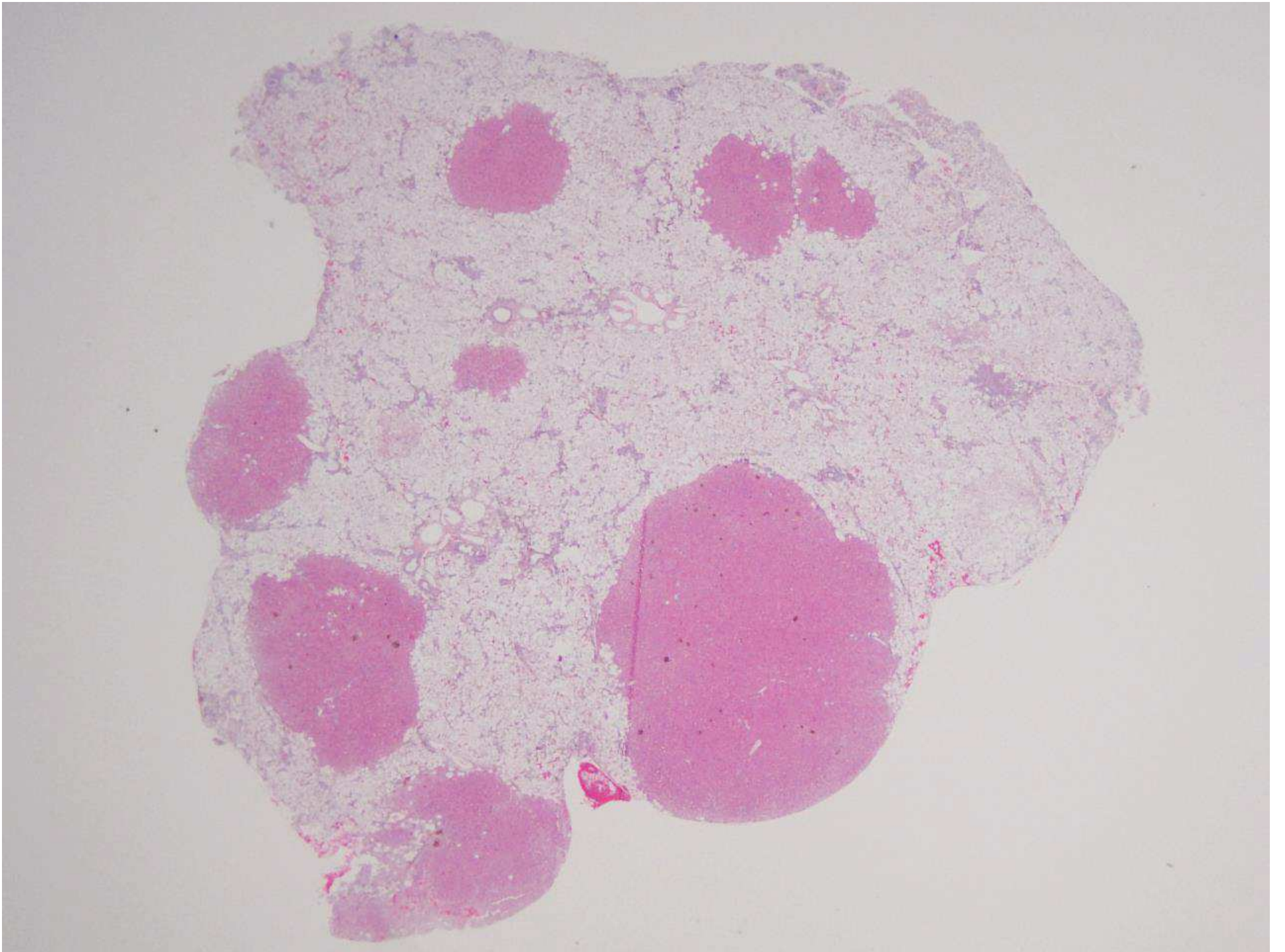
Qoon.jp/より引用

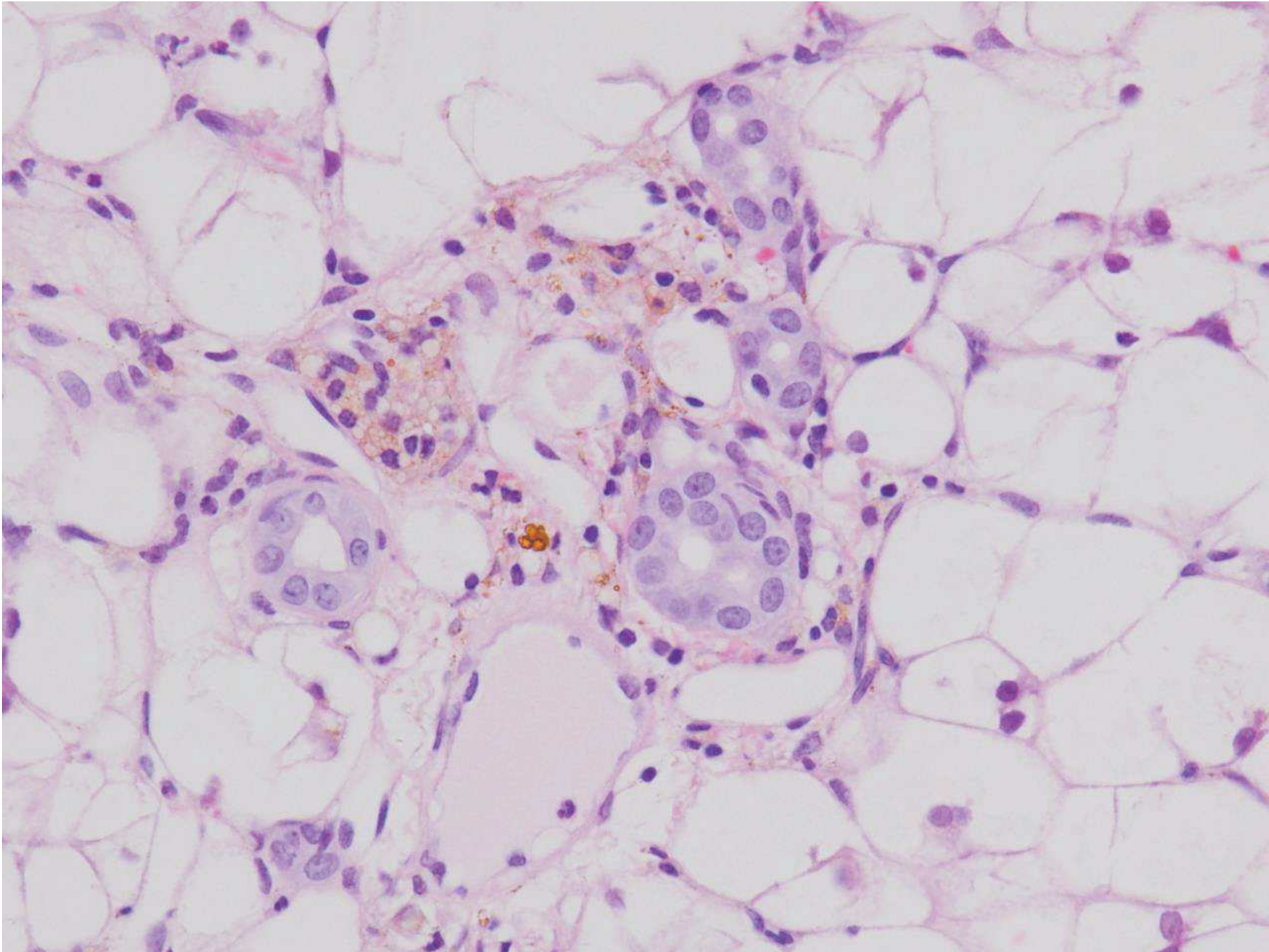
病歴:患畜は腹水による腹部膨満のため受診。開腹手術が行われ、肝臓全体の表面に多数の小結節が存在。また、四肢全ての肉球に多巢性の痂皮がありノミ寄生が考えられた。患畜は手術3週間後に安楽死され解剖が行われた。

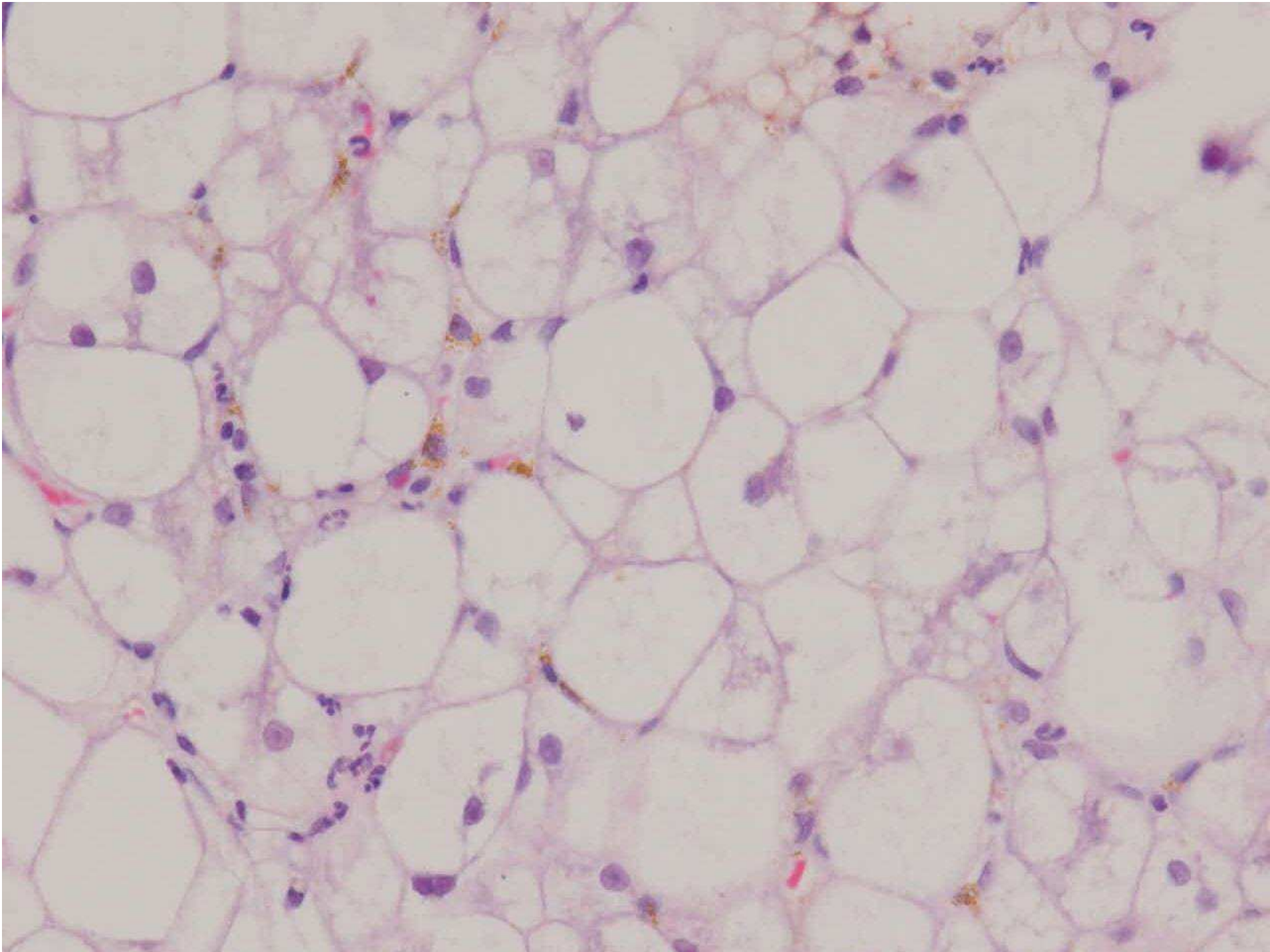
肉眼所見：肉球は鱗状の金褐色の痂皮に覆われる。痂皮は、左側前肢の遠位から肘にかけてと、両飛節に存在。皮下組織に水腫。腹腔に1,220mlの金色の漿液が貯留。肝臓は体重の3.7%あり、広範に無数の茶～赤の小結節が存在。大きさは直径3mm～2.5cm以下であった。

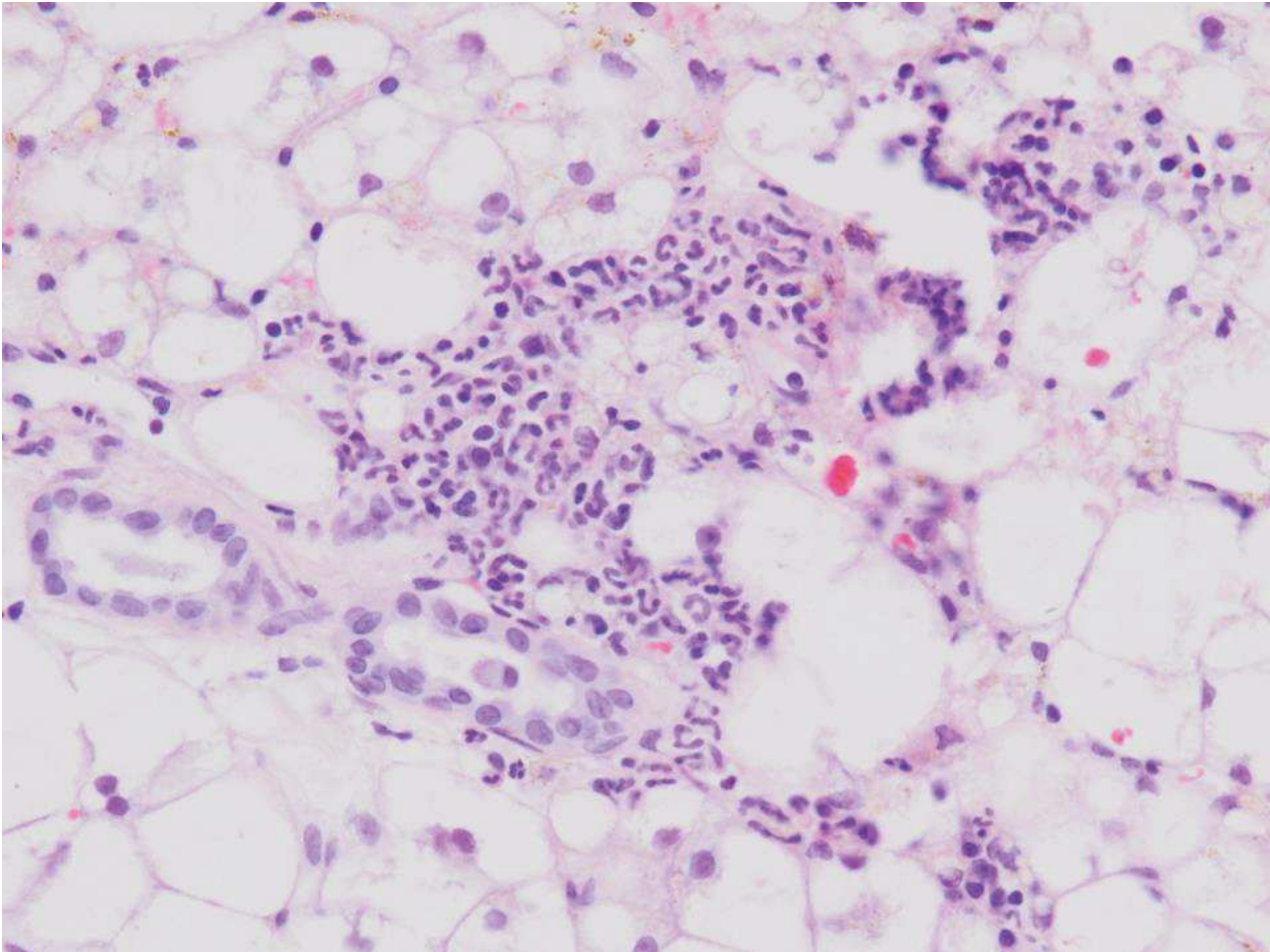


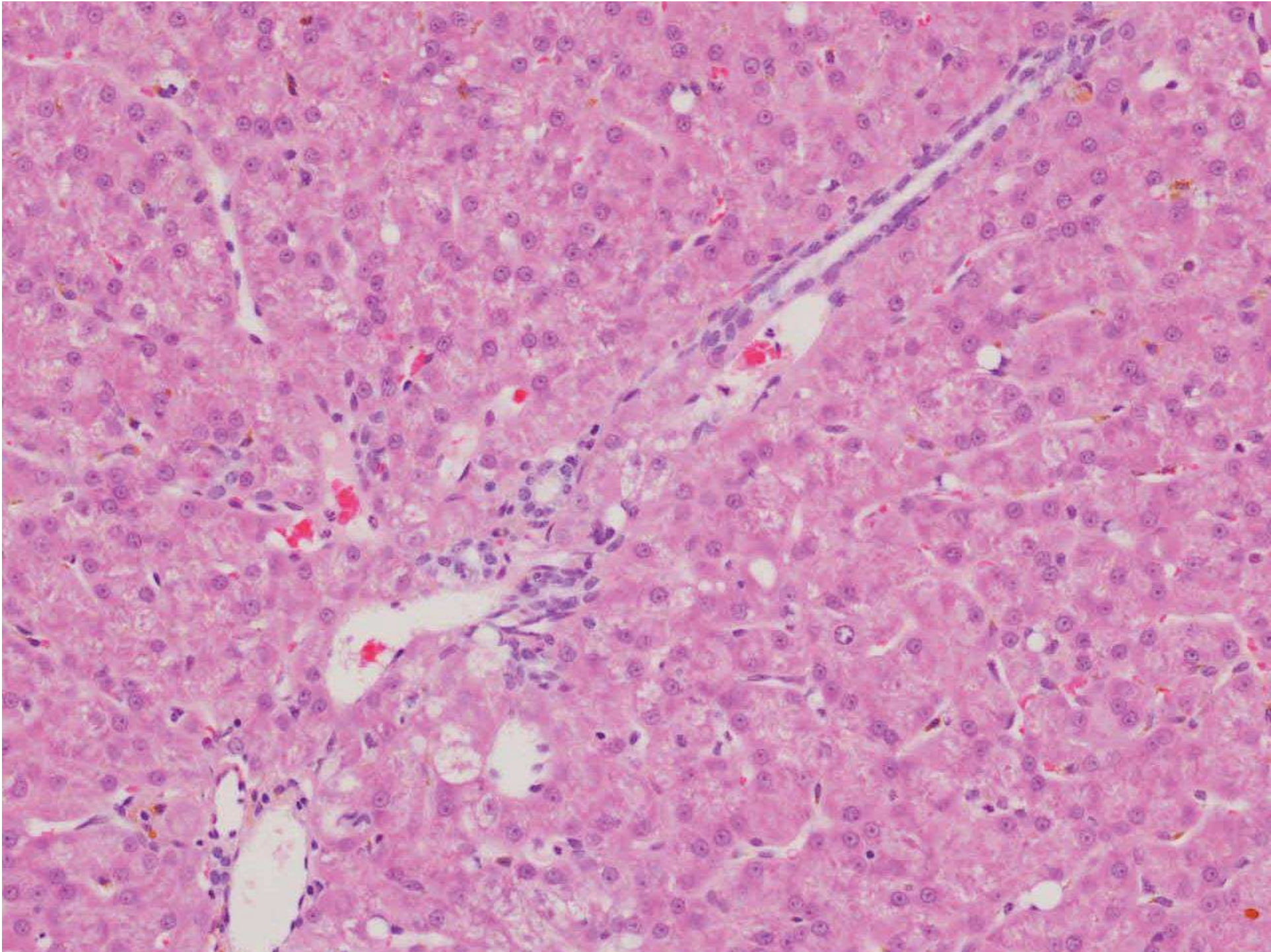




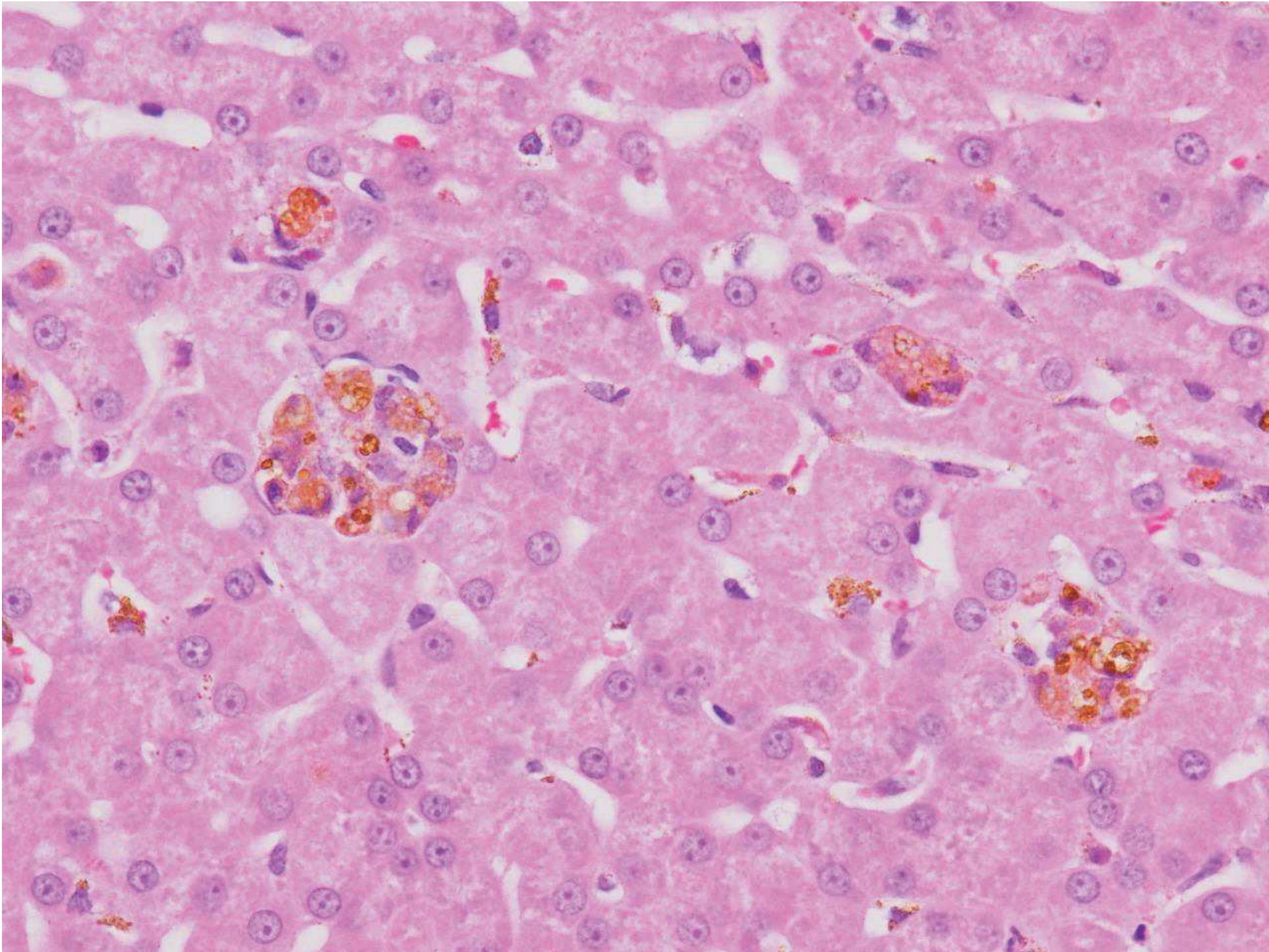


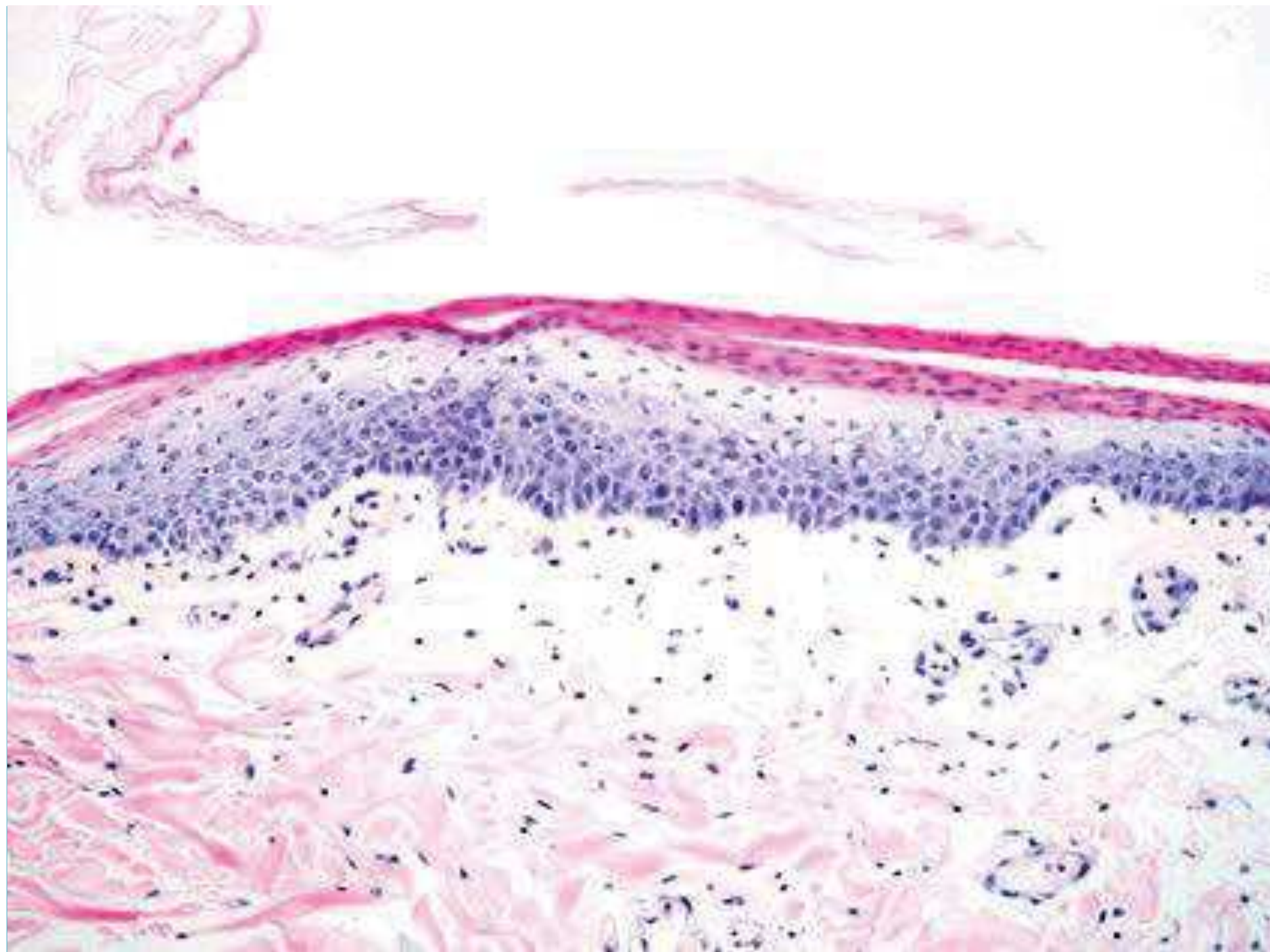












## 提出者の診断

肝臓: 重度の慢性の多巣性～癒合性の実質欠損、脂肪変性を伴う結節状再生、胆管の過形成と毛細胆管の胆汁うっ滞を伴う

肉球: 顕著な慢性の基底細胞過形成、細胞内水腫(有棘細胞層)、不全角化性の過角化症(スライドなし)

Liver: Severe chronic multifocal to coalescing parenchymal loss and nodular regeneration with fatty change, biliary hyperplasia and canalicular cholestasis

Footpad: Marked chronic basal cell hyperplasia, intracellular edema (stratum spinosum), and parakeratotic hyperkeratosis (*slide not included*)

## JPCの診断

肝臓: 肝細胞性の糖原蓄積及び脂質蓄積、びまん性、重度、再生巣を伴う

Liver: Hepatocellular glycogenosis and lipidosis diffuse, severe with foci of regeneration.

## 提出者のコメント

- ・肝臓および皮膚の肉眼的、組織的変化は肝皮症候群と一致。
- ・肝皮症候群は人、犬、猫、クロサイで報告。主に老齢の小型犬が発症し、長期予後は非常に悪い。
- ・肝臓の変化は特発性が考えられるが、代謝性、ホルモン性、中毒性が原因と示唆される。皮膚病変も原因不明だが肝障害によるグルコースやアミノ酸代謝の乱れが示唆される。
- ・特徴的な皮膚病変を引き起こす。皮膚病変は肉球、皮膚粘膜の接合部、圧のかかる場所で生じる。組織学的な外観よりしばしば赤、白、青と表現される。

## 会議のコメント

- ・犬の肝皮症候群はびまん性に肝臓に影響を及ぼす傾向があり、本来非炎症性である。
- ・細胞質の空胞形成を伴い、最終的に実質は虚脱。
- ・肝細胞はグリコーゲン、脂質により膨張。
- ・結節性の再生像は組織学的に重要な構成要素で多巣性ないし癒合性、ランダム。再生結節あたり一つの門脈域の出現が典型的。
- ・臨床学的異常は肝酵素の上昇、小球性の非再生性貧血、異常な高血糖、血小板増加、総ビリルビン上昇、低アミノ酸血症が報告されている。
- ・効果的な治療はなく、多くの犬は皮膚病変の進行を伴って数ヶ月以内に死亡する。

## 肝皮症候群とは(仮説)

肝疾患(腫瘍、肝不全等) フェノバル長期投与etc

！！低アミノ酸血症！！

肢端、顔面、鼠径等の  
皮膚疾患

診断: 血液生化学検査、腹部超音波、生検により総合的に判断  
類症鑑別: 亜鉛反応性皮膚炎、刺激性接触皮膚炎、自己免疫疾患(天疱瘡、全身性エリテマトーデス等)